

## 令和5年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文中学生の部 優秀賞(事務次官賞)

「未来のために、土砂災害に備える」

福島県 葛尾村立葛尾中学校 2年 <sup>まつもと</sup>松本 <sup>はるき</sup>晴樹

総合的な学習の時間に防災について学習した。私たちの住む葛尾村ではどのような防災の対策がなされているのか疑問に思い、全校生徒で調べてみることにした。

まず、村役場に出向き、葛尾村土砂災害ハザードマップや対策について話を伺った。ハザードマップには危険箇所が色分けされ、災害時に危ない場所がひと目でわかった。レベル1から4まで書いてあり、最も高い4だと全員避難となっている。高齢者が多く住む葛尾村だからこそ、災害時にどのように避難するか、誰と、どこになどしっかり話しておかなくてはいけないと感じた。山に囲まれた葛尾村は、住宅街にも危険な所があり、怖さを実感した。最近のニュースでは全国各地で土砂災害が起こっている。あの状況が目の前で起こったらと考えると、真剣に避難経路を確認しておく必要があると思った。

また、普段から役場では防災放送として、交通安全運動や熱中症、新型コロナ警鐘など行っている。私たちも毎日耳にしていたが、放送機器が正常に使えるかを確認するためにも欠かさず、放送しているようだ。毎日耳から入る放送も防災の役割を十分に果たしている。私たちも学校で聞いたときには何かしらの会話になる。

そのあと、備蓄倉庫の見学にも行き、初めて中を見て驚いた。外からしか見たことがなかった備蓄倉庫の中は、アメリカのスーパーマーケットのように棚に段ボールが積み重なっていた。そこには村民が3日間過ごせる量の食糧が蓄えられていた。段ボールベッドや簡易トイレ、おむつなども十分に用意されていた。お米は今年度入れ替え予定らしく、その使い道も模索しているとのことだった。確かに備蓄としてたくさん量があり、安心するが賞味期限の関係で多量に廃棄することにもなる。備えをどう効率的に使うかもSDGsの観点から考えると問題点に繋がってしまう。期限が切れる前に村民に受け渡し、防災のための食糧ということを知っていただくことも必要かと思った。もっと村民にもアピールすることで、防災についての関心を高められると感じた。家族で情報を共有すれば防災を意識した行動も自然と増えていくと思う。

私たちの世代は東日本大震災をほとんど覚えていない。生まれてはいるが、生後数か月で記憶にはない。家族や親せき、ニュースなどの報道で知ったことが全てだ。私の住む葛尾村は全村避難を余儀なくされ、避難先を転々とし、とても大変だったという話は聞いていた。自然災害はいつ起こるか予測ができない。土砂災害にもきちんと備え、対策を取る必要がある。これまでの災害の教訓をもとに行動しなくてはならないと思った。

総合的な学習の時間で学習したこと、家庭科の時間に防災グッズを作るようになった。アイデアを出し合って、防災頭巾、防災バッグなど意見が出た。その中でも、一番好評だったのが防災毛布リュックだ。毛布を畳むとリュックになり、必要なものもリュックに取り付けられる。防災リュックとして試作していく予定だ。普段の家庭科の授業でもマスク、ティッシュケース、トートバッグなどを作成し、村の復興交流館「あぜりあ」で販売し、売上金は寄付してきた。ゆくゆくは、災害対策のリュックもそこで販売したい。そこで得たお金は土砂災害募金として支援していきたいと考えている。少しでも私たちの活動が役に立てるよう、手を尽くしていきたい。

葛尾村は、避難区域が解除されてからも村に戻った人は5百人弱である。そこには高齢者が多く、災害時、全員が安全に避難するには家族や地域のサービスとの連携などが不可欠だと感じた。ましてや山に囲まれているし、土砂災害が起きたら安全な道に車が殺到するかもしれない。災害に備え、災害と向き合うことが必要である。

大震災の際に全国各地、世界中から支援されてきた。13年が経過した今でも果物や図書券、クリスマスカードなど、ありがたいことに学校に支援で送られている。こうして支えられて生きてきた私たちだからこそ恩返しをしていきたい。支えてくださった方が困っているときに、私たちには何ができるのかをよく考え、生活していきたい。中学生でできることは限られているかもしれないが、中学生だからこそできることがあるはずだ。

## 令和5年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文中学生の部 優秀賞(事務次官賞)

夏休みの間にも雨が降り土砂災害のニュースを目にした。離れたところで起こっている問題だから関係ないとか、他人ごとに捉えず、考えていかなければならない。みんなが自然災害に備え、災害が起きたときに安全に行動できる世の中を作っていきたい。そのためには、災害について知り、広げていくことが必要だ。知識を蓄え、災害に対して強い心を持つ。情報を周知して安全な世の中をこの手で創り出していこう。一人一人が土砂災害について考えていくことが、今後の明るい未来を守ることだ。教訓を生かし前に進んでいこう。